

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **郷土資料デジタル化事業**

[0959]

部名	教育部	事業開始年度	平成23年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>郷土資料館収蔵等映像資料</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>デジタル化によって、劣化等による閲覧不可な状態を回避し、映像資料を永く後世に伝える。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>フィルム等アナログ映像資料をデジタルデータに変換する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	デジタル化対象資料数	点			29	0
対象指標2						
活動指標1	デジタル化実施資料点数	点			29	0
活動指標2						
成果指標1	デジタル化完了率(%)	%			100	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	0	0	243	0
正職員人件費(B)		千円	0	0	2,408	0
総事業費(A) + (B)		千円	0	0	2,651	0

費用内訳	
23年度	委託料 243千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	郷土資料館に収蔵している映像資料は、往時の江別の様子を記録した貴重なものである。 フィルム資料は経年による劣化が懸念され、一度消失すると二度と復元できない。また、昨今の映像メディアの進歩・変化によってオリジナルの資料を再生することが困難になりつつあり、資料の特性上、再生ごとに劣化する危険も生ずる。 本事業では、これらの資料をデジタル化することによって映像資料の保全をはかり、かつ活用の利便性を図ることを目的とする。	事業を取り巻く環境変化	経年による映像資料の劣化。映像メディアの進歩・変化に伴い、資料の再生が困難になりつつある。
--------	--	-------------	---

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

郷土の歴史を物語る映像資料を未永く閲覧可能な状態に整備することは市の役割である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

郷土の映像資料を保全することを目的とする本事業は、基本事業「文化・歴史遺産の保存と継承」に貢献するものである。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

そのまま放置しておけば劣化する映像資料をデジタル化することにより、利用しやすい状態で保存することができている。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

デジタル保存に値するアナログ資料が郷土資料館にまだ存在し、今後寄贈等で増える可能性もある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある

ない

理由
・
根拠は？

大学と協働するなどしてコストを抑えて事業を展開していることから、現状以上のコスト軽減は難しい。